

## 令和2年度 学位記授与式 ー学長告辞ー

一斉雪下ろしを行うほど豪雪であった冬もようやく終わり、高田城址公園の桜もつぼみが例年通り膨らみ、開花の準備もととのったようです。吹き抜ける風に春の独特な香りを感じる頃となりました。

上越教育大学を修了される223名の皆様、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。いつ収束するか見当もつかない新型コロナウイルスの影響で、本日の修了証書・学位記授与式の規模を縮小せざるを得なかったこと、誠に残念ですが、現在の社会情勢の中、やむを得ない対応かなと思っています。

さて、修了生の皆さん、この1年間は新型コロナ禍で大変だったと思いますが、2年もしくは3年間の大学院での学究生活はいかがだったでしょうか。修了生の皆さんが学位を手にすることができたのは、皆さんのたゆまぬ努力があったことはもちろんですが、その努力は、家族、友人、大学教職員、地域の方々や、現職大学院生の方は、上司、同僚、教育委員会や地域の方々など多くの人たちによって支えられた結果ですので、その人たちへの感謝の気持ちを忘れないでいただきたいと思っています。

ところで最近の科学技術の発達には目を見張るものがあります。さまざまなモノがインターネットにつながり、それを人工知能(AI)が制御し、ロボットが活躍するようになっていわれています。10~20年後には国内労働人口の半分近くにあたる職業について、AIやロボットに取って代わられる可能性が高いという推計を、国内の研究所も発表していることもあり、今の子供達が日本や世界を支える年代になったときには、想像もできないような社会になっていると思われれます。

科学技術の進歩、交通や情報網の発達等で、私たちを取り巻く社会は急激に変化し、生活様式や人々の価値観にまで影響を及ぼしています。また、既に先端技術が教育現場にも導入されつつあります。文部科学省も「GIGA スクール構想」を進め、1人1台端末の実現や高速大容量の通信ネットワークの一体的な整備などを進めています。タブレットパソコンを用いて、離れた子供たちが同時に学んだり、子供たちそれぞれの学びに応じて個別学習に利用したり、子供たちの理解度をAIが見極めたり、これからは先端技術をもっと利用する状況になるでしょう。

一方、科学技術の発達や生活の利便性向上に比例するように、未来に解決しなければならない課題も増大しています。皆さんもご存じのようにSDGs(持続可能な開発目標)では、17の大きな目標が掲げられていますが、その中に「気候変動に具体的な対策を」や「海の豊かさを守ろう」など、自然環境に関わる目標も挙げられています。

例えば、気候変動の課題では、特に地球温暖化に関わる問題が深刻さを増しています。これまでのように二酸化炭素などの温室効果ガスを継続して排出した場合、ある調査では100年後の日本の気温は現在よりも3℃程度高くなるとも予測されており、その上昇

は高緯度ほど大きいとも言われています。実際、1880年から2012年までの約130年間で、平均気温は0.85度も上昇していることが確認されています。

この地球温暖化問題に関しては化石燃料を用いない「カーボン・ニュートラル」の実現、そのための一策として世界各国でガソリンエンジンの自動車の製造・販売を将来、禁止する計画が相次いでおり、これからは電気自動車などの普及が大きく進むでしょうし、太陽光、風力、波力・潮力、地熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーの利用に拍車がかかることでしょう。

また、温暖化に起因する海面上昇の問題や、海洋汚染の問題も深刻です。海には毎年少なくとも約800万トンものプラスチックごみが流れこみ、既に全体で約1億5,000万トンものプラスチックごみがあると言われています。2050年にはそれが海にいる魚と同じ量にまで増えると予測されており、海の生態系に大きな影響を与えています。日本近海には、世界平均の20倍以上のマイクロプラスチックが漂っており、日本沿岸で回収される漂着ごみ全体のかなりの割合はプラスチック類が占めています。

一方、食糧問題も地球規模で大きな問題です。現在の世界の人口は約78億人ですが、2050年には約100億人になると予想されています。地球上では現在でも飽食の地域と飢餓の地域が存在していますが、人口の増加につれて現在のままでは食料システムが破綻（フードショック）することも指摘されています。牛肉1kgを得るためには餌として穀物が6～20kg、水15000l以上が必要と言われています。その一方、食品ロスを考えると、日本全体では毎年約600万トン以上の食料が廃棄され、これは国連の飢餓地域への年間食糧支援の約1.5倍に当たります。

このように、子供達が支える未来の社会には、解決すべき大きな課題が残されています。子供達がこのような課題が残された自らの未来について学び、主体的に考えることは全ての学びの基となり、大きな意義を持ちます。修了生のほとんどの皆さんは、学校の教師や何らかの意味で教育に携わる仕事に就くことと思います。子供達には「自ら主体的に学ぶ力、コミュニケーション能力を伴った対話的な学び、論理的思考に基づく深い学び」など、未来を生きるための力を身につけることが必要で、教育現場にもその対応が求められています。子供たちがどのような能力を身につけるかは、教育に委ねられており、教師の責任は重大であると言えます。ICTやAIがいくら発達しても、人間を相手にする「教育という活動」では言うまでもなく、教師が最も大きな影響力を持ちます。

アメリカのエンターテナー ジム・ヘンソンも述べています。

「子供たちはあなたが教えようとしたことを忘れてしまう。

しかしあなたという人間を覚えているものだ」

いつまでも子供達の心に残るような思いやりのある教師となって下さい。

社会に出たら責任ある役割を果たすことが多いと思います。本学で学ばれた皆さんは、

教師として社会人としての資質能力を十分に身につけて頂いたと確信しています。どうぞ自信を持っていろいろなことにチャレンジして、一人ひとりが自らの手で輝かしい未来の扉を開けられることを期待しています。本学の修了生として、人生を充実したものとされることを心より祈念し、告辞といたします。

令和2年3月19日  
国立大学法人 上越教育大学長  
川崎 直哉